

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成23年9月15日(2011.9.15)

【公表番号】特表2010-525251(P2010-525251A)

【公表日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【年通号数】公開・登録公報2010-029

【出願番号】特願2010-504011(P2010-504011)

【国際特許分類】

F 16 F 15/02 (2006.01)

【F I】

F 16 F 15/02 C

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年7月29日(2011.7.29)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

振動体(19；19')と、振動体を面に連結するよう適合された少なくとも1つの弾性エレメント(11，13，15，17)とを有する周波数同調ダンパーにおいて、

当該面の振動が、減衰されるべきものであり、

弾性エレメントは、ダンパーが取り付けられているとき、面の法線に平行な長手軸(39)に沿って異なった場所に配置された幅広部(29)と狭小部(31)とを有し、

幅広部と狭小部のうち、一方は弾性エレメントを振動体(19；19')に取り付けるよう適合され、他方は弾性エレメントを面に取り付けるよう適合され、幅広部はキャビティ(41)を有し、

幅広部および狭小部は移行部(43；43')により相互に連結されており、

狭小部(31)のうち最も移行部(43；43')に近接した部分(45)は、幅広部(29)のうち、軸方向(39)から見た場合に移行部に最も近接した位置にある部分(47)において、キャビティの内側に適合しており、これによって、狭小部を少なくとも部分的にキャビティの中に押し入れることができ、このことにより、移行部(43；43')を曲げることができる特徴とするダンパー。

【請求項2】

少なくとも1つの弾性エレメントは、長手軸の周りで円形対称となっていることを特徴とする請求項1に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項3】

移行部(43)は、長手軸に対して中心がくるように調整された環状のディスクの形状を有することを特徴とする請求項1または2に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項4】

移行部(43)は、長手軸に対して中心がくるように調整された円錐台の包絡面の形状を有することを特徴とする請求項1または2に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項5】

キャビティ(41)は、長手軸の方向において、幅広部で開口していることを特徴とする請求項1乃至4のいずれか1項に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項6】

キャビティ(41)は、弾性エレメントの狭小部の中へ延びていることを特徴とする請

求項 1 乃至 5 のいずれか1 項に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項 7】

弾性エレメントは、シリコンゴムから形成されていることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか1 項に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項 8】

弾性エレメントは、振動体(19)のキャビティの内側にある外周突起部(35)に係合する弾性エレメントの第1外周溝(27)によって振動体(19)に取り付けられることを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか1 項に記載の周波数同調ダンパー。

【請求項 9】

弾性エレメントは、弾性エレメントを振動面に取り付ける第2外周溝(25)を備えていることを特徴とする請求項 8 に記載の周波数同調ダンパー。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0001

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0001】

本出願は、振動体と、振動体を面に連結するよう適合された少なくとも 1 つの弾性エレメントとを有する周波数同調ダンパーに関する。ここで、当該面の振動が、減衰されるべきものである。弾性エレメントは、ダンパーが取り付けられているとき、面の法線に概して平行な長手軸に沿って異なる場所に配置された幅広部と狭小部とを有し、幅広部と狭小部のうち、一方は弾性エレメントを振動体に取り付けるよう適合され、他方は弾性エレメントを面に取り付けるよう適合され、幅広部はキャビティを有している。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0004

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0004】

本発明の目的は、既知の装置によっては取り組まれていない振動を扱うことのできる周波数同調ダンパーを提供することである。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

この目的は、請求項 1 により画定される周波数同調ダンパーにより実現される。とりわけ、冒頭で述べた種類の周波数同調ダンパーにおいて、幅広部および狭小部は移行部により相互に連結されており、また狭小部のうち最も移行部に近接した部分は、幅広部のうち、軸方向から見た場合に移行部に最も近接した部分において、キャビティの内側に適合している。このため、狭小部を少なくとも部分的にキャビティの中に押し入れることができ、これによって移行部を曲げることができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

キャビティは、長手軸の方向において、幅広部で開口していてもよい。このことにより

、周波数同調ダンパーの取り付けを容易にする道具をキャビティ内に挿入することを可能にする。キャビティはまた、この目的のため、弾性エレメントの狭小部の中へ延びていてもよい。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

【図1】図1は、周波数同調ダンパーを示す図である。

【図2】図2は、4つの弾性エレメントを有し、振動面に取り付けられているダンパーを示す分解組立図である。

【図3】図3は、図2のダンパーを示す正面図である。

【図4】図4aおよび図4bは、図3のダンパーを示す断面図である。

【図5】図5は、ダンパーの変形例を示す図である。

【図6】図6は、第1のタイプの弾性エレメントを示す図である。

【図7】図7は、第2のタイプの弾性エレメントを示す図である。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明は、一般に、周波数同調ダンパーに関する。そのようなダンパー1の例が図1に示されている。ダンパー1は、面3における振動を減衰させるために用いられ、このダンパー1は、振動体5と、少なくとも1つの弾性エレメント7とを備えており、これらは面3に取り付けられており、そして、ともにばね質量系を提供している。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0015

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0015】

振動体5の質量m、および弾性エレメント7の剛性kおよび減衰定数cは、所定の目標(target)周波数で振動すると推定される面3に減衰効果をもたらすよう選択される。面がこの周波数で振動するとき、振動体は、面と同じ周波数で、しかし面とは位相を異にして振動させられる。これによって、面の振動がおおむね減衰される。振動体は、面の振動振幅よりも相当に大きい振幅で振動してもよい。図1に示される周波数同調ダンパーの一般的な概念は、それ自体はよく知られている。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

以下の開示は、周波数同調ダンパーに利用される弾性エレメントであって、振動する面における3次元までの振動を扱うのに適した弾性エレメントを示す。図1に示されているように、ダンパーは、従って、z次元(面3の法線に平行している)における振動とともに、xおよびy次元(面3に平行している)における振動を減衰させる。弾性エレメントが、異なった次元において異なったばね特性(剛性、減衰係数)を提供してもよいという

点が特筆すべき点である。従って、ダンパーを、異なった次元において異なった周波数を有する面3における振動を減衰させるのに用いることができる。